

稀少動物の保護目的に写真展を開催

大沢利裕写真展「座頭鯨～ケラマへの回遊～」

アマチュアを含めて写真家にとって写真を撮ることの意味はさまざまであろう。まず撮る対象が好きでたまらない、という衝動があり、その瞬間を残したい、という気持ちが動く。しかし、そうそう長続きするものではないだろう。やはり、そこに多くの人々に見てもらいたい、あるいは記録を残すことによって公に貢献したい、という何らかの正当性を持ち得ることが必要なのであろう。

今回の大沢利裕さんの場合は、まさにその目的を明確に持って写真展を開催することになる。11月28日～12月4日に銀座のギャラリー・アートグラフで開催される「座頭鯨～ケラマへの回遊～」がそれだ。「近年、生物多様性の保全が注目される中、私は環境保全の業務に従事し、並行して稀少動物を撮影、保護を発信する写真展の第三弾です。今回の写真展を通じてザトウクジラ保護への貢献を目的に、来場者数に応じて、『座間味村ホエールウォッチング協会』に寄付を致します。今後もこうした活動で稀少動物の保護に貢献していきたいと考えております」と、この写真展を位置付けている。

すでにザトウクジラと新潟の瓢湖に飛来する白鳥を題材に、2度の写真展を開いているが、いずれも稀少生物をテーマにしている。「取材で一番印象に残っているのは、2007年は特に凄かった。1年に2つの世界的に非常に貴重なシーンに遭遇しました。1つ目は、2007年1月28日(日・午前)に2頭のクジラが合計でブリーチ(ジャンプ)を108回したシーンに出会いました。但し、これほど飛ぶとクジラもお疲れで良い写真にはなりませんでしたが。2つ目は、同年3月10日(土・午前)に20頭以上のメイティング(繁殖活動によるメスの奪い合い)に遭遇。ここま

で多くのクジラのメイティング

は世界的に非常に珍しい。海中では、オス同士の激しい戦いが繰り広げられる。水面では血をにじませながら体当たりの応酬をして戦っている。さらに大興奮状態の20頭以上のクジラの群れが、船の前を横切り船が身動きできなくなった。クジラの群れには勝てませんね!!」。目の前でクジラが乱舞している様が目に浮かぶ。

今回の写真展は「国立公園・慶良間諸島に回遊して来るザトウクジラを13年追いつけた取材記録」で、これまで撮りためた作品をまとめて世に問うことになるが、まだまだ撮影は続く。「2014年3月5日、国立公園に指定された慶良間諸島。この海域にはザトウクジラが毎年1～3月にかけて、アリューシャン列島、カムチャッカ半島近海等から繁殖活動(出産・子育て・交尾)のために訪れ、赤ちゃんクジラに体力が付く頃、各々帰路に就きます。この慶良間海域は、ザトウクジラの雄大さ、豪快さ、また親子クジラの微笑ましい行動に触れることができる貴重な海域です。私達は、次世代に向けてこの海域の環境を大切に守って行かなければならないとともに、いつまでもザトウクジラが帰って来ることを願ってやみません」と大沢さんは熱く語る。様々な人に観てもらいたい写真展となろう。



慶良間海域で乱舞するザトウクジラたち

大沢利裕さん

